

作物名	薬剤名	使用目的	品種及び作型	特徴及び注意事項
きく(施設栽培) (切花用)	<b>ビーナイン顆粒水溶剤</b> (ダミノジッド水溶剤)	節間の伸長抑制	施設栽培	1. 単剤使用を厳守する。 2. 散布時に屋根及び側面を密閉できない施設では、使用できない。 3. 大輪ぎくは、摘芯10日後または定植後3日目及びその後30日間隔で1～2回。小中輪ぎくは、摘芯後7日～発蕾初期に使用する。 4. 破蕾後は、花形、花色に異常をきたすことがあるので注意する。 5. 効果の持続期間は濃度や使用時期、草勢によって異なるので注意する。 6. 抑制効果は品種により異なるので注意する。
		花首の伸長抑制	施設栽培	
きく(施設栽培) (ポットマム)	<b>ビーナイン顆粒水溶剤</b> (ダミノジッド水溶剤)	節間の伸長抑制	施設栽培	
きく(施設栽培) (ポットマム)	<b>キクエモン</b> (ダミノジッド水溶剤)	節間の伸長抑制	施設栽培	
き	<b>ジベレリン液剤・水溶剤</b> (ジベレリン液剤・水溶剤) ・ジベラ錠 ・ジベラ錠5 ・ジベレリン液剤	開花促進 草丈伸長促進	—	
き	<b>エスレル10</b> (エテホン液剤)	開花抑制	—	
き (電照栽培)	<b>エスレル10</b> (エテホン液剤)	早期不時発蕾防止	電照栽培	1. 調製した薬液はその日のうちに使用する。 2. 老化苗には使用しない。 3. 展着剤は加用しない。 4. 石灰硫黄合剤やボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用及び本剤散布の7～10日後の近接散布は避ける。 5. 気象条件や品種により効果に差がある。
き	<b>ピピフルフロアブル</b> (プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤)	花首伸長抑制	—	1. 黄色系を除く有色系品種では、花色に影響することがあるので使用しない。
き	<b>オキシベロン液剤</b> (インドール酪酸液剤)	さし木の発根促進及び発生根数の増加	—	1. 散布液の調製には、水道水等の清潔なものを用いる。 2. 他の農薬とは混用しない。 3. 高温時には葉害発生のおそれがあるので、粉剤を使用する。 4. 系統や品種により効果が認められない場合がある。
き	<b>オキシベロン粉剤0.5</b> (インドール酪酸粉剤)	さし木の発根促進及び発生根数の増加	—	1. うすく粉衣するだけで効果がある。つけすぎはかえって効果を落とす。 2. 他の農薬とは混用しない。 3. 系統や品種により効果が認められない場合がある。
カーネーション	<b>オキシベロン液剤</b> (インドール酪酸液剤)	さし木の発根促進及び発生根数の増加	—	1. 散布液の調製には、水道水等の清潔なものを用いる。 2. 他の農薬とは混用しない。 3. 高温時には葉害発生のおそれがあるので、粉剤を使用する。 4. 系統や品種により効果が認められない場合がある。
カーネーション	<b>オキシベロン粉剤0.5</b> (インドール酪酸粉剤)	さし木の発根促進及び発生根数の増加	—	1. うすく粉衣するだけで効果がある。つけすぎはかえって効果を落とす。 2. 他の農薬とは混用しない。 3. 系統や品種により効果が認められない場合がある。
花 (キク、ゼラニウム等)	<b>ルーション</b> (1-ナフチルアセトアミド塗布剤)	さし木の発根促進	キク、ゼラニウム等	1. 過剰に処理するとかえって効果が劣るので、うすく粉衣する。 2. 他の農薬とは混用しない。 3. 挿木(挿苗)の基部を3cmぐらい水に浸し、その部分にうすい層になって付着する程度に粉のまままぶす。 4. 或いは本剤を適量の水でペースト状にねってから挿木の切り口に塗り付ける。日陰干で乾燥してから挿す。この場合、挿木(挿苗)にあまり多量に厚く塗布しないようにすること。上記の方法で処理し、挿し終わったら周囲に土をかけてよく固めておくこと。